

2020 年度 事業計画書

自 2020 年 4月 1日
至 2021 年 3月 31 日

公益財団法人 日本テレビ小鳩文化事業団

2020年度事業計画書

1. 視聴覚障害者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1) 手話放送の制作支援

「NNNニュースサンデー」に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜日午前6時15分～6時30分までの全国放送ニュース。

聴覚障害者の方々への情報サービスの一助として、手話通訳を画面右下にワイプで挿入している。2020年度も東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けた4名の手話通訳士がローテーションを組み、年間52回の手話放送に携わる。

(2) 点字カレンダーの製作及び無料配布

点字カレンダーは、1976年より製作し全国に無料配布して以来、44年間続けている基幹事業。2020年度も写真付き点字カレンダーを製作し、関東を中心に全国の施設や個人に約2万部を無料配布、加えて、全国の日本テレビネットワーク各社の協力を得て2万部余りの無料配布を実施する。

点字カレンダーには、月ごとに美しい写真を付ける事により晴眼者と視覚障害者とのコミュニケーションを促進する願いが込められており、昨年度からは写真の説明文を点字で表記しカレンダーに同封している。次回配布する点字カレンダーのテーマは「音のある風景」の予定。

製作と配布は、社会福祉法人日本点字図書館の協力を得て実施している。

(3) 手話スクールの開講と手話の普及事業

「手話スクール」は、手話ができる人を一人でも多く増やし、聴覚障害者

への生活支援に貢献していただくことを目的に、1975年より現在まで毎年開講している基幹事業。

2019年度からは、1年生（入門編）、2年生（基礎編）の講座に加えて、新たに3年生（上級編）の講座を開講した。

その目的は、

手話をさらに深め、地域で手話を生かした活動や本格的に手話通訳者を目指す人は、そのための講習会を受けなければならないが、その講習会を受けるには、最低3年間の手話の学習経験が必要となる。以前は、2年間の授業を終えた後、更に別途1年間の講習会に通う必要があったことから、その人たちのために新たに3年生の講座を開講した。

授業は、土曜日に四ツ谷の弘済会館で年間27回開講する。8月の「24時間テレビ」では、手話コーラス部がエンディングの「サライ」を手話で演じる他、聴覚障害者の来場に対応するために手話通訳士を会場に派遣する。

2020年度の手話スクールには、1年生（44期生）49名、2年生（43期生）28名、3年生（42期生）27名が参加する予定。

(4)ラジオから発信する視覚障害者支援の情報番組の放送

視覚障害者に対して、晴眼者がどのように接すれば良いのか、また、日々の生活の中で、視覚障害者は、何を必要としているのか等を考える上で参考となる情報をラジオを通じて発信し、視覚障害者と晴眼者が共に生きていける社会を促進することを目的としている。2014年4月に放送を開始以来、今年度で7年目を迎える番組で、放送はアール・エフ・ラジオ日本の毎週土曜日午前8時15分から30分までの15分間。今年度も視覚障がい者のための番組連動コンサートやイベント、イベントと連携した特別番組の編成を行う予定で、鉄道ホーム事故を食い止める交通安全キャンペーンにも参加する。

メインパーソナリティは、日本テレビの杉上佐智枝アナウンサー。

2. 視聴覚障害者を支援する団体への助成

(1) 角膜移植・再生医療への助成

2010年度から開始した角膜移植・再生医療研究費への助成。

助成先：移植・再生医療を支える会

(2) 聴覚障害児の学校への助成

団体生活へのスムーズな順応を図ることを目的とした、耳の不自由な生徒約60人が参加する夏期郊外学習に対する助成。

助成先：学校法人 日本聾話学校

(3) 視覚障害者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

目の不自由な人を援助する人材の指導・育成のためのDVDの教材の製作に助成。また、同じ目的で行う地方講演会にも助成。

助成先：社会福祉法人 日本盲人職能開発センター

(4) 「盲人との接し方」ガイドブックの製作への助成

小冊子「盲人に接する人々のために」1万部の製作と配布に助成。

援助者が、盲人と一緒に歩く方法や危険物の扱い方などを学ぶ内容。

助成先：社会福祉法人 日本盲人職能開発センター

(5) 点字技能検定事業への助成

日本盲人社会福祉施設協議会が行う点字技能検定に助成。受験にかかる費用

の一部等に使用される。この検定試験の目的は、点字関係職種の専門性と認知度を高め、点字の普及と点字の質の向上を図ることにある。合格者は厚生労働省より「点字技能師」として認められる。

助成先：社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会

(6)視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成

全国の各種老人ホームの職員や在宅福祉に携わるヘルパー等を対象に、視覚障害者へのケア技術向上や、介護職員への指導者の養成を目的とした講習会への助成。講習会にかかる費用の一部に使用される。

助成先：特定非営利活動法人 全国盲老人福祉施設連絡協議会

(7)その他の助成

- ・聾者の団体が主催する野球大会に優勝・準優勝・最優秀投手賞楯を贈呈

助成先： 全東京ろう社会人軟式野球連盟

全日本ろう社会人軟式野球連盟

- ・視覚障害者のテニス大会に助成

助成先：日本ブラインドテニス連盟

- ・チャリティ映画会開催に助成

映画のチケット購入

助成先： 社会福祉法人日本点字図書館、社会福祉法人日本聾話学校

- ・本間一夫文化賞に助成

記念品代

助成先： 社会福祉法人日本点字図書館

- ・東京都盲人福祉大会に助成

助成先： 公益社団法人 東京都盲人福祉協会

- ・失明原因の解明と失明予防・知識の普及と啓発を図る。

助成先： 公益財団法人 日本失明予防協会
・ 東京都社会福祉協議会関係会費
助成先： 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
などを予定している。

3. 文化及び芸術に関する各種の公演、講座等

(1) グランプリ・コンサート2020 (公財)日本室内楽振興財団と共催

今年の5月に開催される第10回大阪国際室内楽コンクールにて、第一部門（弦楽四重奏部門）の優勝者を招聘して行うコンサート。

次代を担う演奏者の登竜門としてすっかり定着した。公演を通じて室内楽の楽しさ、素晴らしさを伝えるコンサート。

また、毎年、視覚障害者の方を約60名招待している。

全国10都市で行われる公演のうち、東京公演を担当する。

開催日： 2020年11月15日（日）会場：東京サントリーホール小ホール

(2) 想いで詩コンサート2020 主催

世代やジャンルを超えて将来も残していきたい、歌い継いでいきたい日本の名曲を送り届けるコンサート。今年も1960年代から70年代の音楽の黄金時代の名曲を中心に構成する。また海外の名曲も散りばめる。

会場と一体となって、音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えていく。

普段、プロの演奏家、歌手のライブのコンサートに触れる機会が少ない地方を中心に開催する。

今回は、地元少年少女合唱団が、このコンサートにプロの歌手と共演することが大きな特徴。

2020年度は、北海道岩見沢市にて開催する。

開催日： 2020年11月8日（日）予定。 会場：北海道岩見沢市民ホール

また、「思いでの詩コンサート」の「スピンオフ形式」のミニコンサートを、東京（2021年1月9日東京の読売新聞大手町ホール予定）、ほかもう一か所で行う予定。

(3) スクールコンサート 主催

次代を担う小・中学生の子供たちをメインの対象にしたコンサート。

小・中学校の子供たちに、一流のプロの演奏家や歌手のライブの音楽に触れる機会を創り、ジャンルを超えて様々な音楽の素晴らしさを伝え、芸術への目を開かせ、豊かな感受性を育くむことが目的。

また、演奏を聴くだけでなく、地元中学校の吹奏楽部や少年少女合唱団が、プロの演奏家や歌手と共演する参加型のコンサートであることも大きな特徴である。

普段、プロの演奏家、歌手のライブのコンサートに触れる機会が少ない地方を中心に開催する。全国の小・中学校、地元教育委員会や市民ホールと協力して実施する・

20年度は、東京では、筑波大学附属視覚特別支援学校にて5回目のスクールコンサートを行うほか、昨年宮崎県一か所であった地方公演を、5か所（予定）に増やして充実させる。

2020年 7月2日（木） 岡山県津山市加茂町文化センター

10月19日（月） 静岡県 磐田市立豊田中学校

11月下旬 東京都文京区 筑波大学附属視覚特別支援学校

秋から冬予定 宮城県 石巻市立渡波中学校

千葉県 南房総市立千倉中学校

2021年 2月25日（木） 岩手県 釜石市市民ホール

しょうみょう こうえん **(4) 聲明 公演 主催**

日本音楽の源流といわれ、単旋律音楽に大きな影響を与えた「聲明」と「洋楽器」が共演。「曼荼羅・音の饗宴」をテーマとし、荘厳な読経の響きと美しく幻想的な音楽で構成されたコンサート。毎回 発売と同時に完売する好評のコンサート。

開催日： 2021年1月16日（土） 会場： 東京 第一生命ホール

(5) 親子で楽しむ「つうコンサート」は 中止

2016年から昨年まで5回 佐渡、愛媛、宮崎、隠岐の島などで開催してきたコンサート。團伊玖磨が作曲したオペラ「夕鶴」をベースにして構成。「夕鶴」を通じて、人への思いやり、約束を守るということ、恩返しとは何かなどを伝え、親子でプロの歌手の公演を楽しんでもらうことを目的にスタートしたが、観客動員が少なく、減少傾向が続いてきた。

そこで、あえて「夕鶴」という題目や楽曲にこだわった「つうコンサート」は中止し、ジャンルを超えて様々な音楽の名曲を楽しんでもらうことを目的に、「スクールコンサート」や「想いでの詩コンサート」を充実させる。

4. 文化及び芸術に関する事業、活動への助成

(1) 第71回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に対する助成

英語力と弁論能力を高め、次代を担う中学生に、国際交流の担い手を育成することを目的とした上記大会への助成。2020年度は第72回目を迎える。

助成先： 日本学生協会基金